

頑張る

農業法人

農業法人をよりどころに、和気あいあいと仲良く、集落の農地を守ろう。高齡化・担い手不足が進む南丹市園部町大西集落で、2013年12月に設立した農事組合法人「大西営農組合」は、集落の全農家37戸で構成。水稲、小麦と後作の小豆のブロック転作や、稲刈り・米の乾燥調製の農作業受託で農地の保全に取り組む。

集落は、同町西部に位置し、きれいな本梅川沿いに農地約30鈔が広がる。集落戸数44戸のうち農家が37戸を占める農村地帯だ。

1984年に府の圃場(ほじょう)整備が着工したのを機に、集団転作するため全農家で任意組織の大西営農組合を発足した。4年後に完成した圃場で、JA京都の指導を受けて、小麦のブロック転作や小豆の生産に取り組み、集落全体で現在の営農体系を築いてきた。

一方で農家の高齡化による担い手不足が大きな課題となっており、このままでは荒廢農地が出現し、集落自体が活気を失ってしまうという危機感から、行政や同JAの指導を受け、昨年に法人を設立した。

代表理事の梅本章夫さん(67)ら理事5人と監事2人で経営に取り組む。

現在は、集落内の農地約10鈔で水稲4・9鈔、小麦5・1鈔と小麦の後作の小豆1・2鈔を栽培して同JAに全出荷する。

農事組合法人大西営農組合

南丹市 園部町



集落ぐるみで法人経営に取り組む梅木代表理事(中)と役員

集落全農家で設立

小豆は手作業収穫にこだわり、高品質で実需者の評価も高い。

今年からJAの指導で、京都オリジナルの酒造用掛米「京の輝き」の生産や、省力・低コスト化を目指して鉄コーティング直播(ちよくは)30

ムードづくりを大切に

々に新たに取り組んでいく。農作業受託として田植え3鈔、稲刈り10鈔、米の乾燥・調製1200袋を行う。

農繁期は役員や組合員が農作業を行い、集落の農家以外の人には小豆の収穫などにパートタイマーとして携わってもらう。集落全体で同組合の運営を行っている意識を高めて、和気あいあいとしたムードづくりを大切にしている。

梅木代表理事は「大西集落が元気になってほしい一念で法人化に取り組んできた。今秋に162㎡の倉庫建設を行い、米の乾燥施設の増設、色彩選別機の導入を計画している。また、来年から小麦の後作に安定収入が見込める黒大豆にもチャレンジして、経営を軌道に乗せていきたい」と話す。

▽法人所在地 南丹市園部町大西条ケ市30。電話 0771(62)1364 (梅木さん宅)。